

2年ぶり卒業式 537人巣立ち 樽商大

小樽商科大で17日、卒業式にあたる学位記授与式が行われ、学部生497人と大学院生40人の計537人がキャンパスを巣立った。新型コロナウイルス感染症予防のため、式は学科ごとに4回に分けて行った。

昨年は新型コロナウイルスの影響で中止しており、2年ぶりの実施となった。例年は学生と保護者ら千人以上が体育館に一堂に集まるが、今年には卒業生だけが参列。優秀学生の表彰などを割愛して時間を短縮した。

117人が卒業した企業法学科の式では、穴沢真学長が「自信を持って新しい世界へ飛び込んで」と激励。



穴沢真学長から卒業証書を受け取る学生代表の大久保麻衣さん

大久保麻衣さん(22)が代表して卒業証書を受け取った。

4月から札幌市役所に就職する大久保さんは「コロナ禍で孤独を感じていた

が、久しぶりに友人に会えて良かった。地域に貢献できる社会人になりたい」と抱負を話した。

(日野夏美)

魁陽亭 華麗な歩み冊子に

老舗料亭 樽商大 研究者ら調査

【小樽】日口外交の舞台となり、著名人に愛された休業中の旧料亭「魁陽亭」（小樽市住吉町）の歴史やゆかりの品を紹介した冊子を、小樽商科大の研究者らが発行した。明治・大正期の実業家渋沢栄一が訪れ料亭からの眺めを絶賛した日記など、老舗料亭の歴史を写真入りで解説している。
（鈴木孝典）

渋沢、裕次郎… 著名人にも愛され

魁陽亭は明治初期に開業し、1985年に小樽市が歴史的建造物に指定した。名称を「開陽亭」「海陽亭」と変えながら営業。2015年に経営者の高齢を理由に休業した。17年に総合不動産業インフィニットルミナス（東京）が購入した後、18年に不動産投資業オール・ケア・アシスト（札幌）が再購入。小樽商科大は両社と協力し、18年から建物内に残る2千点以上の史料を調べ、まとめた。冊子は「旧魁陽亭―北海道を代表する老舗料亭」。日露戦争後の1906年（明治39年）、旧日本郵船小樽支店が開かれた樺太国境画定会議後の祝宴会場になった際の様子を写真で紹介。08年（同41年）に渋沢栄一が宿泊し小樽港を望む景色を「眺望開潤ナリ」と評した日記や、昭和の大スター石原裕次郎が泊まった部屋の写真、政財界人や文化人の書画・色紙も掲載した。



小樽商科大の研究者らがまとめた冊子「旧魁陽亭―北海道を代表する老舗料亭」

執筆者の一人で小樽商科大の千部作成。市立小樽図書館などでも無料配布し、研究成果を紹介するホームページ（<https://ouc-kaiyotei.com/>）でも公開している。A4判77ページで、

農業担い手対策、移住促進策…

大学生、政策競う

札幌で道大会

大学生が道内自治体の30年後の目指すべき姿と、その実現に向けた政策を競う「未来自治体全国大会2021」の北海道大会が13日、札幌市中央区で開かれた。札幌や近郊の大学生12チームが、農業の担い手不足や孤独・孤立対策などをテーマに提言した。

若者の政治参画を促すNPO法人ドットシエイビー
12チームは北海学園大や北大、小樽商科大などの1〜3年生30人。いずれも同法
北海道支部(札幌)が主催。



農業の担い手対策を取り上げ、1位になった北海学園大の3人

(佐藤圭史)

人による地方議員のインターネットによる地方議員のインターネットに参加しており、経験を政策に反映させた。

出場者の相互投票で1位に選ばれたのは、いずれも北海学園大の小池流菜さん(3年)、吉田隼さん(2年)、福田隼斗さん(同)のチーム「S.M.L」。農業の担い手不足解決に向け、退職後の高齢者の就農を促す政策を発表。自治体による土地の貸与や技術研修などの施策を提言し、福田さんは「定年は人生のゴールではなく、新しい職場へのスタート」と訴えた。デジタル社会を見据えエンジニアに特化した移住促進を提

言したチームもあった。大会は、全国各地から勝ち上がった27チームによるウェブ予選を経て、上位4チームによる決勝が28日にオンラインで行われる。